

「子持勾玉」について

メモ)鉄本 (2022.06.21)

当館にはカトンボ山古墳出土の「子持勾玉」が展示されている。5世紀中頃のもので、現時点では最も古い時期のものとは比定されている。子持勾玉は、その形状や出土場所から通常の勾玉とは異なった遺物とみられている。

1. 出土事例(22遺跡26事例から)

出土状況は、住居跡からの出土のものと覆土中から出土のものに分類される。前者は、床面、カマド燃焼部、住居内ピットなどで、後者は、住居周辺の埋土、住居から離れた模造品製作場所などで見ついている。

2. 子持勾玉出土の住居跡の性格

- ① 石製模造品との関連性 石製模造品製作工房跡が認められ、これらの石製品と共に子持勾玉が出土している。また、石製模造品製作遺跡の分布状況と子持勾玉の密集分布状況が近似している。
- ② 拠点集落 一辺8m以上の大型住居、カマド・間仕切り溝・ベッド状遺構など特殊な遺構、大量の石製模造品の未製品、祭祀遺構で出土が見られる。
⇒⇒ 古墳時代中期の新技术・新文化を背景に集落の大規模化が始まり、こうした新技术を持つ拠点集落から子持勾玉が出土している。

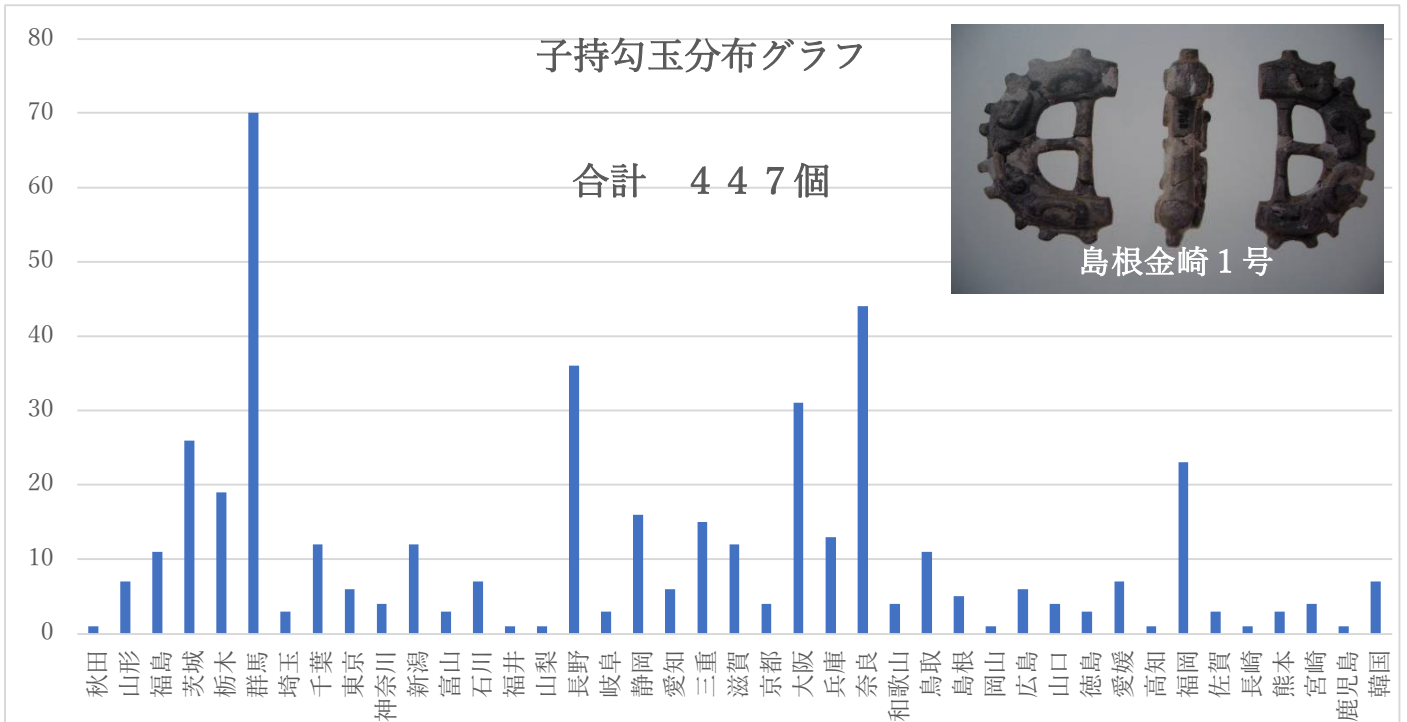
3. 子持勾玉の性格

- ① 石製模造品の一種 子持勾玉は石製模造品と伴出する例が相当数あり、また、材質が共に滑石であることから石製模造品の一種と捉えることができる。
- ② 祭祀による被熱 覆土から出土している例で熱を受けて破損しているものが見られる。これは祭祀中又は祭祀後の被熱によるものと考えられる。

4. 子持勾玉とマツリの例

- ① 金井下新田遺跡(群馬県) 網代垣に囲まれた方形区画と周辺の祭祀施設(掘立柱建物)から出土。
- ② 池島・福万寺遺跡(大阪府) 特殊な須恵器や滑石模造品の生産遺構。白玉の破棄チップ、未完成品、有孔円板などと共に子持勾玉が出土。自家生産自家消費による祭祀の可能性。

5. 子持勾玉出土地別分布グラフ



【参考文献】・「子持勾玉資料集成」 國學院大學日本文化研究所 2002

- ・令和3年夏季企画展図録「古墳群に暮らした人たち」のコラムから 近つ飛鳥博物館
- ・「住居跡出土の子持勾玉」 金沢大学考古学紀要27 桜井秀雄 2004